



脱炭素に関する取組み方針

2026年2月

広島国際空港株式会社

代表取締役社長 尾崎真一

1. 脱炭素に対する基本的な考え方(基本方針)

広島国際空港株式会社(以下、当社)は、空港運営事業者として航空輸送を支える社会インフラを安定的に提供するとともに、地球環境への配慮を重要な経営課題の一つと位置付けています。

気候変動問題への対応は、将来にわたり空港の持続可能性を確保するうえで不可欠であり、当社は空港運営に伴い発生する温室効果ガス排出量の把握および削減に、主体的かつ継続的に取り組みます。

当社は、脱炭素化を一過性の施策ではなく、空港運営の質を高めるための中長期的な取組みとして捉え、実効性のある省エネルギー施策や再生可能エネルギーの活用を通じて、着実な改善を積み重ねていきます。

2. 温室効果ガス排出量の把握範囲(マネジメント対象)

当社は、空港運営会社として自ら管理・運営する施設および業務を中心に、温室効果ガス排出量の把握を行います。

具体的には、ターミナルビルや付帯施設、屋外設備等における電力使用や燃料使用など、当社の運営活動に起因する排出を主な対象としています。

3. これまでの主な取組み(実績)

当社では、脱炭素化に向けた基盤づくりとして、施設を中心に省エネルギーおよび再生可能エネルギーの活用に取り組んできました。

主な取組みは以下のとおりです。

- ターミナルビル、エプロン、駐車場等における照明のLED化
- 航空障害灯等の屋外設備におけるLED化
- 空調設備における省エネルギー機器の導入
- 空港駐車場における大規模カーポート型太陽光発電設備(PPA方式)の導入および、全量自家消費による再生可能エネルギー活用

これらの取組みにより、当社の空港運営に伴うCO₂排出量は着実に減少しており、脱炭素化に向けた実行力を段階的に高めています。

4. 今後の取組みの方向性(中長期的な取組み)

当社は今後も、温室効果ガス排出量の継続的な把握と管理を行いながら、設備更新や運営改善を通じた排出削減を計画的に進めます。

特に、以下の取組みを重点的に推進していきます。

- ターミナルビルにおける照明のLED化完了に向けた取組み
- 滑走路灯火、誘導路灯火、進入灯火等の航空灯火について段階的なLED化を実施

これらの取組みを通じて、空港運営におけるエネルギー効率の向上と環境負荷の低減を両立させていきます。